

2020年度(令和2年度)あるまつりかフラワー

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年3月15日

事業所名 あるまつりかフラワー

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	0	2	部屋を区切り、最適なレイアウトをしている	利用人数によっては狭いと感じることもある。
	2	職員の配置数は適切である	2	0	2		欠勤が出た際に人数が厳しい時があるので、加配など加算を取って適正配置をする
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	0	1		トイレはバリアフリーになっていないが、今のところ支障はなく使用している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1	0	ミーティングを随時行っている	業務改善に取り組むという意識が全般的に低いことが課題
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1	0	管理者を中心に改善に向けた会議などは行っている	非常勤までアンケートの改善点などを意識してもらうことが難しい
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	1	1	会社HPで公表している	公表している他事業所の結果まで知りえていない人が多い
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3	0		今後要検討
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	1	0	主に外部研修の利用をしている	内部ではOJTに留まっているので専門性を高めていくためにも外部研修に非常勤職員も参加を促していきたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	0	0	定期的なケース会議で作成している。	ケース会議でモニタリングをしっかり行い、支援計画の作成に生かしていきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2	0	定期的なケース会議をして、アセスメントの共有はしている。	発達支援研究所の製作した、アセスメントを活動していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	1	1	常勤職員が立案を行っている。	活動案を全スタッフから集めて活動プログラムに生かしていきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	0	月間プログラムで固定化しすぎないようにしている。	活動のバリエーションを増やして、専門性の向上をスタッフ全員で目指していきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	2	1	1		長期休暇中は課外活動などを取り入れようとしていたがコロナ禍で実現できることが少なかった。コロナが収束したら色々企画していきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	3	1	0	集団活動の中で個別の課題ができるような内容作りをしている。	活動のバリエーションを増やして、専門性の向上をスタッフ全員で目指していきたい。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	1	0	毎日ミーティングは行なっている	役割分担まで話し合っている時とそうでない時がある。なるべく時間を作って打合せをしていきたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	2	0	翌日のミーティングで話し合っている	ミーティングノートを活用して振り返りを共有できるようにしていきたい。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	0	日々の記録でも個別支援計画意識して見るようにしている。	支援計画の検証を毎回できるように記録を取っている。
	18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	3	1	0	毎日のミーティングやケース会議で振り返っている。	定期的なケース会議が出来るようにしていきたい。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	2	1	1	4原則は意識できている	いろんな活動を工夫して取り入れていきたい。	

2020年度(令和2年度)ああるまつりかフラワー

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	1	1		コロナ禍で会議そのものがなかった。収束後あれば積極的に参加したい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	2	2	0	送迎時に申し送りは常に受けている。	学校と送迎時に対面や電話連絡などを利用して情報共有に努めてトラブルを回避していきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	0	4		非該当
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	0	0	4		非該当
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	0	0	4		非該当
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3	0	随時連絡等のやり取りはメールなどで行なっている。	必要に応じて連携し、助言や研修を受けていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	2	1		現状行っていないが、図書館などの社会資源の利用等は行なっている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	2	2		地域の協議会等は必要に応じて積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	0	毎日のミーティングで行なっている	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	2	0	施設内でアンガーマネジメントの研修は行った。	保護者に寄り添えるような観点からでもできる助言をしていきたい。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	1	3	0	重要事項説明書を通じて説明している。	コロナ禍で出来なかったが、保護者会を開いて丁寧に行っていきたい。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	0	適宜キッズノートや面談等を活用して行なっている。	保護者に寄り添いながら必要な助言をしていきたい。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	3	1		予定をしていたが、コロナ化禍で開催はできなかった。来年度は行いたいと思っている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	2	2	0		苦情解決体制はあり、契約時に保護者にも説明しているが大きな苦情等にはこれまでに至っていない。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	2	0	適宜キッズノートを活用して行なっている。	
	35	個人情報に十分注意している	3	1	0		同意書を作成しているが、全ての職員が内容の詳細まで把握していない現状があるため研修等で周知していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	2	2	0	児童への対処はしている。	保護者は現状非該当
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	3	1		今後検討していく

2020年度(令和2年度)ああるまつりかフラワー

【放課後等デイサービス】事業所における自己評価結果(公表)

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	2	0	作成して周知をしている。	周知に留まっているため定期的なマニュアルの読み合わせなどを行なっていくことで強化していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	0	2か月に1度活動で行なっている。	職員だけの避難訓練を実施していきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	2	0	ミーティング、OJTなどで周知している。	身体拘束の要件など非該当児が多いため職員全員が把握しているとは言えない部分があるため、研修などで周知していく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	0	4	0		上記と同様
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	2	2	該当児がいない。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	1	1	ヒヤリハットを作成し、注意喚起につなげている。	リスクマネジメントについても研修などで強化していく必要性を感じている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。